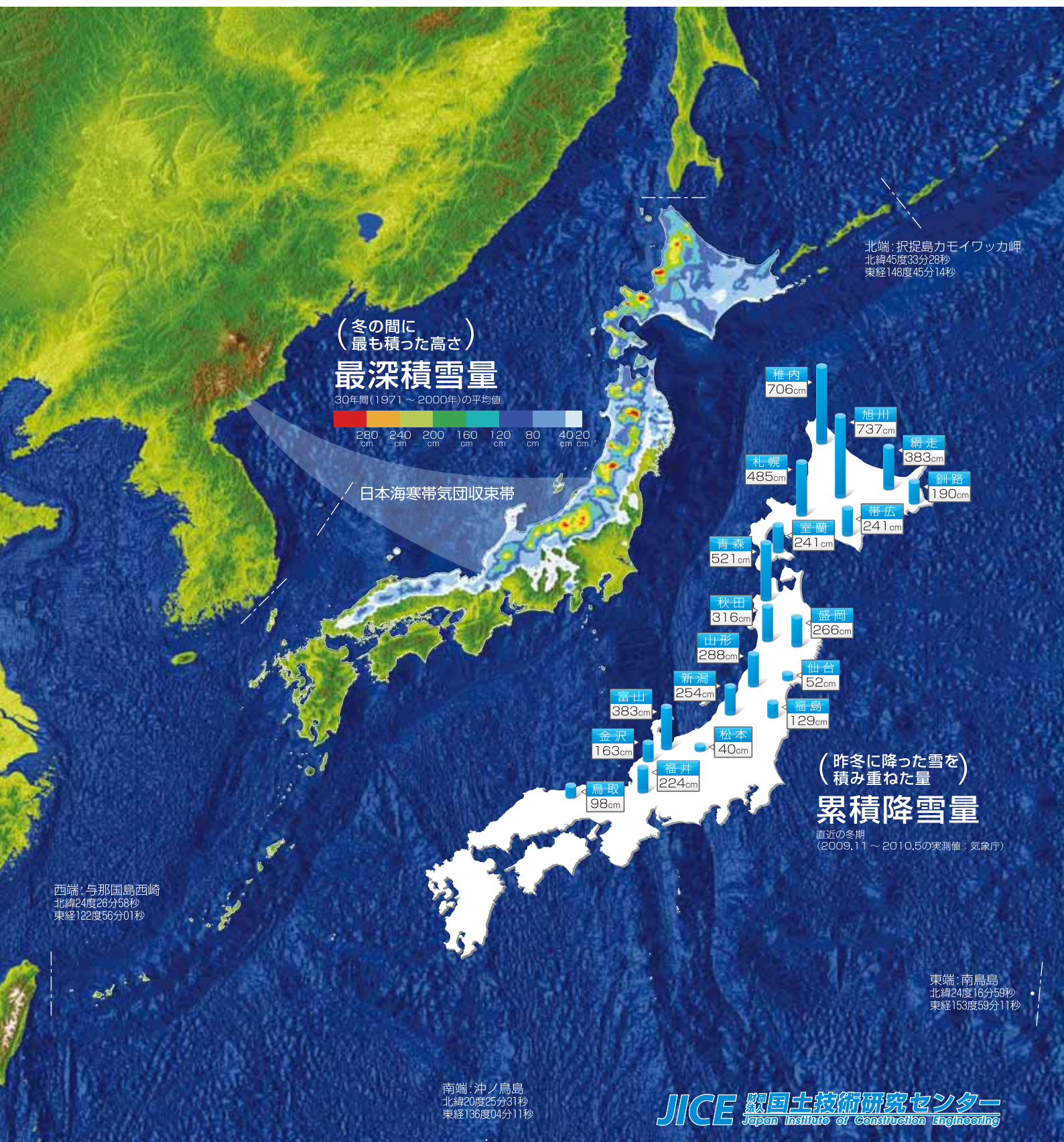


# JICE REPORT

2010/第18号

REPORT OF JAPAN INSTITUTE OF CONSTRUCTION ENGINEERING



今号の表紙は、日本列島の最深積雪（各年の積雪の最大値）の分布と昨冬の累積降雪量について日本地図上に示しています。

日本の積雪の特徴として、「日本海側への降雪の集中」があります。冬の西高東低型の気圧配置により、大陸側からの強い季節風は、暖かい日本海を渡りながら、日本（対馬）海流による大量の水蒸気の供給を受けます。この日本列島に吹きつける湿った強い北風が、日本列島中央部を走る山脈（脊梁山脈）にぶつかり、雪を降らせます。一方、太平洋側には、山を超えることによって水蒸気を失った非常に乾いた冷たい風（「上州のからっ風」の「赤城おろし」が有名）が吹きおろします。

気象衛星の雲画像でも分かるように、雪雲は筋状に何十本も平行に並びますが、朝鮮半島北部の白頭山（標高 2700m を超える）周辺の山岳地帯の影響により、強制的に寒気の気流は高地のふもとを回りこみ、風下で収束（合流）します。これは「日本海寒帯気団収束帯（JPCZ）」と呼ばれており、北西の季節風が吹く間に、北陸地方を中心として激しい豪雪をもたらす要因の一つとなっています。

最深積雪が 1m を超える地域は多雪地域となり、建築基準法（施行令第86条第2項）に基づく積雪荷重（単位荷重及び垂直積雪量）が地域ごとに定められています。

また、「積雪寒冷特別地域における道路交通の確保に関する特別措置法」による「積雪寒冷特別地域」に指定されている市町村数は 731（H21.1.1 現在）あり、全国の人口の 21.6%、国土面積の 62.1%（人口及び面積は H17 国勢調査）となっています。

このように、私たちは、我が国の国土の半分程度が恒常的な降積雪に見舞われ、産業の発展や生活水準の向上が阻害されるという厳しい自然環境の中で暮らしています。

（出典）表紙は、気象庁の累積降雪量（2010.5.11 時点）及びメッシュ気候値 2000 年のデータ（1971 年から 2000 年の観測データをもとに、各年の積雪の最大値（最深積雪）を平均化した値のメッシュデータ）を基に作成しました。

積雪寒冷特別地域略図

